令　和　２年　３月　２日

保護者様

横浜市立本郷特別支援学校
校　長　　須　藤　　明

令和元年度　学校評価報告書につきまして

早春の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、本校では、「中期学校経営方針」を保護者、地域にご説明して理解と協力をお願いするとともに、その評価を効果的、継続的に学校経営に生かし、より信頼される学校づくりに取り組んでいます。
今年度は学校評価を次のように行ってきました。

４月２４日	今年度の「中期学校経営方針」を学校便り１号でお知らせ
１１月～１２月	保護者の皆様へ「学校教育活動アンケート」実施
２月１０日	職員による自己評価を学校説明会でご報告
２月２０日	「まちとともに歩む学校づくり懇話会」へのご説明

※　「まちとともに歩む学校づくり懇話会」は、医療、地域療育、町内会、進路先、学識経験者、はまっ子、PTAなどの委員で構成される学校関係者組織です。

そして、今年度の「学校評価報告書」としてまとめたものが、裏面に記載のものになります。今後も、よりよい学校づくりに取り組んでまいりますので、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、来年度の「中期学校経営方針」については、今年度の評価をもとに現在、校内での校内担当部署にて検討、作成中です。来年度初めの学校便りにて保護者の皆様にお知らせする予定です。

横浜市立本郷特別支援学校　　学校評価報告書　（令和元年度）

A:十分達成　B:概ね達成　C:努力必要　D:改善必要

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①児童生徒の実態と学習指導要領の内容を踏まえた個別の指導計画の目標設定のプロセスを全校で共有し指導の充実を図る。②主題研で「根拠のある授業作り～実態に合った授業の目標設定～」をテーマに学校教育目標や児童生徒の実態把握を基に授業作りを行う研究等を行う。	①個別の指導計画の作成の手引きを一部改訂を行った。また電子掲示板でプロセス等を発信を行った。②各学部の指導についてPDCAサイクルに基づき、児童生徒の目標設定について検討し、支援の共有や授業改善を行うことができた。	A
健やかな体	①一人ひとりの子どもの実態に合わせた「体力づくり」に取り組む。②健康状態の把握に努め、嘔吐物処理研修や手洗い等の励行を行い、感染症等の予防や拡大防止に取り組む。③給食だよりや献立表で、健康を保つための食事や食育についての情報を保護者に紹介する。	①児童・生徒の実態や日々の体調に合わせて、ランニングやダンス等の運動を継続的に行うことで体力づくりに取り組めた。②日々の注意喚起、手洗いプロジェクトや研修、また丁寧な消毒を行い、感染症等の予防、拡大防止に努めた。③給食だよりや、献立表で食材や栄養について情報提供し、食育行事を行い、様子についても紹介した。	A
センター的機能の取組	①センター的機能として学校支援の充実を図る。学校、地域の関係機関と連携し、特別支援教育の専門性を広める役割を果たしていく。②校内では、コーディネーターの役割や活用の仕方を知らせ、教員・保護者の相談に応え、課題解決に向けての取り組みに寄与する。	①小中学校の一般級・個別支援級の支援や、地域の関係機関との連携を多数行い、センター的機能としての役割を果たした。②校内教職員との連携を常に図りながら保護者からの相談に応じるなどし、必要に応じて外部の関係機関との連携をしながら課題解決を図った。卒業後に地域で暮らすために関係諸機関と支援の構築を一層図っていきたい。	B
地域連携	①近隣地域のイベントや本校の活動を配布物などで発信する。②本校の施設（体育館・グラウンド）を地域団体に開放したり、夏季休業期間に屋上プールを在校生・卒業生に開放したり、余暇活動に貢献する。	①掲示板を使ったり、地域支援ニュースを配布したりして、近隣地域の情報や本校の活動報告を発信した。今後はホームページの充実を図りたい。②体育館・グラウンドを放課後や休業日に開放して、17団体の登録・使用があった。夏季休業期間の屋上プール開放では、のべ67名の利用があった。	B
交流教育	①小学部と中学部において副学籍交流が円滑にすすむよう、取りまとめを行っていく。②学校間交流に関しては、より実りのある内容となるよう各学部、相手校と連携し、計画的・継続的な取り組みとなるよう協議しながらすすめていく。	①副学籍交流の窓口となり、各校との交流がスムーズに始められるよう手続きをおこなった。②各学部の学校間交流が円滑に進められるように、交流校との連絡調整を行い、計画的な交流を行うことができた。	A
安全管理	①学校防災計画の理解を深めるとともに、一人ひとりの役割を果たせるよう意識を高める。 ②日頃から安全意識を高められるように教職員一人ひとりが、連携を図りながら、様々な状況に落ち着いて対応できるようにする。	①職員会議等で細かく内容の確認をすることができた。 ②児童生徒の捜索訓練では、不明時の状況を確認し、捜索班、関係諸機関、家庭と連携を取ることを想定しながら迅速に落ち着いて訓練に取り組むことができた。	A
いじめへの対応	①毎月「いじめ防止対策委員会」を開催し、いじめの未然防止、早期発見と早期対応、適切な対処や措置にあたる。②子どもの人権擁護の観点から、人権・交流教育部と校内連携を強化して学校全体で取り組み、必要であれば学校として警察などの関係機関とも連携する。	①月に1度の「いじめ防止対策委員会」で、いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、必要に応じて臨時会議を開き問題解決のための情報共有と対策会議ができた。今後は全職員でいじめに対するより一層の意識向上を図りたい。②人権・交流教育部と連携を取り、人権研修等の研修を学校全体で行った。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①メンター研では、教職員全体への事前発信も新たに行うとともに、研修内容のいっそうの充実を図る。②現在、職員会議の報告事項で伝達している内容を、可能なものはグループウェアで行い、職員会議の効率化を図る。③乗用草刈り機の活用によって職員草刈り作業への負担軽減し、本来の業務に専念できる時間を増やす。	①メンター研の取組は教職員への事後報告に加えて事前発信も行うことができた。②少しずつではあるが、職員会議の報告事項をグループウェアで行うことや、意見や質問を事前に把握することなどにより、会議を効率的に運用できた。③乗用芝刈りを積極的に活用することにより職員への負担軽減ができた。	A

学校関係者評価	・当事者の意見をアンケートで聞き、それを基に評価をするサイクルができていて、毎年しっかり学校評価が行われている。・6月に見学した時と比べて、児童生徒がとても落ち着いて学習に取り組み成長を感じる。地域を含めた教育環境が良いからだと思う。・インクルーシブ教育の観点から考えると、将来的には特別支援学校のあり方がどうなっていくのかが課題。・地域の住民が通学見守りボランティアをしている。地域に協力できることがあれば言ってほしい。・何年間か学校間交流を続ける中で好ましい関係づくりがされている。・学校はいろいろなことに取り組んでいる。家庭でも可能性を信じてできる事は行っていきたい。・地域連携の視点から児童生徒の活動を地域の人にもっと見てもらうと良いのでは。
評価結果に対する学校の見解	・来年度「まち懇」から「学校運営協議会」になっても、様々な立場の学校関係者の方から引き続きご助言をいただきながら学校づくりに取り組んでいく。また、責任が重くなる「学校運営協議会」のメンバーには、今まで以上に学校の取組内容について理解していただき、承認していただけるように説明、発信していく。 ・学校評価のサイクルやシステムについてはここ数年でほぼ確立できたので、今後はそのシステムを活用してよりよい学校づくりを行うとともに、将来的に学校として持続可能な教育活動ができるよう地に足の着いた取組をしていく。

中期取組目標振り返り	A適切な指導について…研究・研修を通して専門性を高める取組がしっかりとできた。また、根拠のある授業づくりにも複数年度にまたがってじっくりと取り組むことができ、成果が表れている。B効率的な組織運営…グループウェアの活用、働き方改革の取組をしっかり行うことができた。今後も効率的に業務の遂行ができるように取り組んでいく。C安全な教育環境…昨年度の誤飲事故の反省を活かし、安全管理の意識を高め、大きな怪我などもなく年度末を迎えることができた。今後も、様々な場面を想定した安全管理を徹底していきたい。

学校説明会後の2/20に行われた「『まち』とともに歩む学校づくり懇話会」の話し合いをもとに、完成版を作成いたしました。
（前回お配りしたものに「学校関係者評価」「評価結果に対する学校の見解」「中期取組目標振り返り」）を加えてあります）